光子　あのたえんちゃんのことが……

秀作　いや、わしの[illegible]はつりてはわしの一番知ってゐる筈（病気）だ。わしはお前や子供たちの將来のためにこゝに家を建て、置くことは莫明ふやりかたと思つたのだ。わしは前たちのやさしい心を見るにつけても、[illegible]わしのことを考へてはいけないと思つたのだ。わしはあの陰気な寺の庫裡で死んでも寂しいとは思はぬ。（苦しい）

光子　だつてあなた。あなたはあの病気の間に[illegible]藤川に[illegible]筆を握らせられてゐて、笹山先生に金の無心状をかきにふりました。それを思ふと……

秀作　さうだ、わしは笹山君にちやうど七度金の無心を言つてやつた。笹山君はいつも親切であつた。だがわしはもう生きてゐることのできない人間なのだ。わしはそれを知りながら笹山君に金の無心状を七度書いた。笹山君は[illegible]わしの[illegible]病能[illegible]を知つてゐる。それを知りながら

（この世界に）

誰から

31